

研究会を終えて

～チューター&スタッフメッセージ～

皆さんと色々な話ができ、私自身大変勉強になりました。ESDで培った力は、環境問題にも人権問題にも有効なはず。もちろん新型コロナにも…。でも、感染防止と経済の両立が難しいことも再確認されました。時間はかかりますが、やっぱりこの活動を継続させ、自分で考えて何か行動に移せる人を育てることが重要です。

井中 宏史

参加者がそれぞれの実践を聞きあいながら、自らの実践の特徴や課題に向き合ったこと、また、SDGsを意識した授業を考えていくなかで、各々が教育で大切なことって何かを共有できたことがこのプロジェクトの成果です。日々の忙しさのなかで、SDGsのような学習内容は「足し算」の考え方で授業づくりも進めがちですが、何を子ども・若者とともに考えていきたいのかを立ち止まって考えることが今とても重要な時機です。

曾我 幸代

「ESDでどんな力を身につけさせたいのか？」そのためには何が必要なのかを授業方法に留まらず、本質的な議論ができたことは大きな成果でした。小学校から大学、公立からオルタナティブ・スクールまで、立場はそれぞれですが、多くのことを得ることができました。今までの教育の枠組みを根幹から問い直すエネルギーを感じ、今後の展開が益々楽しみになりました。

山本 武志

学校現場を離れて9年。周りが大人だけの境遇に置かれ、自分的には話し合いにどれだけ寄与できたか、「？」がいっぱい付きましたが…。魅力たっぷり個性の皆さんの熱い議論は、聞いていてとても刺激的で楽しい時間でした。これからも「すべての命を取り残さない」世界を目指し、何をすべきなのか一緒に学びましょう！

藤井 昌也

児童・生徒が主体的に、課題をもって学習に取り組むために必要なこと、自分に足りないものを探し、議論するために研究会に参加した先生方。対面の研究会でなく、オンライン開催の中、自分の普段の取り組みを見直し、他のメンバーやチューターとの議論を通して、自分の新しい可能性や新しい授業を見だせたと思います。コロナ禍の中、新しい教育が求められる中、いろんな可能性を子どもたちに実践してくれると期待しています。

大鹿 聖公

「問い」「問いかけ」「主体性」「じっくり聴く」「非言語のコミュニケーション」「待つ」…。

研究会に参加いただいた、日々子どもに向き合っている教員の言葉です。そして、学びかたの要素です。

「私は」という主語で「私の意志」を語ってほしい。私以外の「人々の意志」をしっかり聴いてほしい。社会の創り手である「自分の存在価値」を見出してほしい。熱い研究会でした。教員のみなさんの「なんとかしたい」という「学びへの志」にしっかり触れました。次は…。「学びあい」の可能性をもっともっと探ります。

新海 洋子

生徒と向き合う先生方のひたむきな姿が印象的でした。限りある時間や様々な制約の中で、互いの思いに耳を傾け、相手の気持ちを想像しながら交わされる意見に、先生方の今後の授業がどう展開するのか楽しみです。

清水 君代

先生方から「会の後、元気になれる！」「新しいことをやってみようと思える！」との声もあり、こういった場、また場づくりの大切さを感じました。出された課題や問いは、今の社会環境をふりかえり、SDGsの未来をつくるヒントになるのではないのでしょうか。

高橋 美穂

一般社団法人SDGsコミュニティ

SDGsに会い、SDGsを大切にしている仲間と「SDGsコミュニティ」を立ちあげました。

だれひとり、とりのこさない…。

むずかしいけれど、今の社会に欠かすことのできない、わたしたちの“ミッション”です。

主な事業

- SDGsに関する講師、ワークショップファシリテーター
- 企業、行政のコンサルティング
- 講座・研修、研究会など企画・運営
- 調査研究、施策提案 SDGsに関する様々な事業企画・運営

〒461-0005 名古屋市東区東桜2-18-3 #702

Web <http://sdgscom.com> Email office@sdgscom.com



みんなの未来研究所

一般社団法人SDGsコミュニティ



学びに向かう力を育む

「ESD for 2030」

NAGOYAプロジェクト

活動報告

「すべての学校でSDGs達成のための学びが実践されること」を目指し、

SDGsカリキュラムの創出・実践の場づくりのための研究会を行いました。



本プロジェクトはなごや環境大学共育ゼミナールとして実施しました。

デザイン・イラスト/水野さほこ
発行 2021年3月25日

2020年度は、研究会9回、成果報告会1回を行いました。
参加したメンバーは、小・中学校、高校の教員、元教員の9名。
チューター6名が伴走をし、研究会をすすめました。



研究の流れ

実践している
ESD授業の紹介と
課題の共有

課題解決のための
意見交換

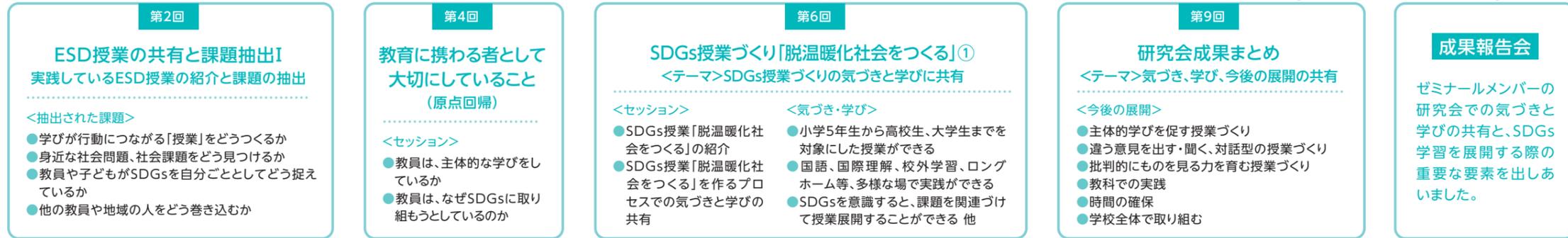
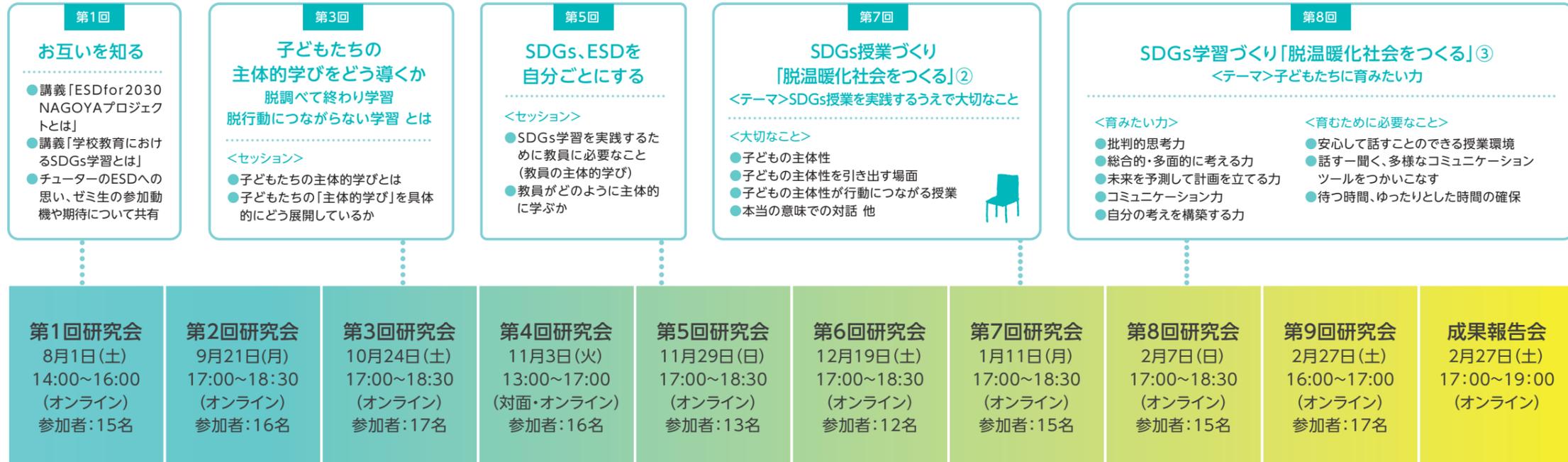
SDGs学習(ESD)の
重要性の理解

共通テーマでの
SDGs授業づくり

SDGs授業を
実施する上での
重要ポイント抽出

成果報告と
外部評価

主な内容



見出した“たいせつ”なこと

- 子どもに任せて子どもがやってみようと思えるような手立て
- たった1時間をかけての学びあいを授業に組み入れること
- 子どもたちの自由な時間の自主的な姿。ゆったりとした時間。ゆったりとした時間のあがる授業づくり
- 授業をする、教員と子ども、子どもと子どもの関係性
- 子ども達が安心感を持てる授業空間
- 当たり前になっていることに対して問いをもつ授業
- 子ども達が興味を持っている身近なものを題材にした授業
- 小さい時から批判的思考力を育むこと
- 答えのない問いを考え、自分の意見を発表すること
- 授業で知識を学び、得た知識をどう行動につなげるか、違う考え方はないかと生徒達が認識・知識を広げること
- 心の変容を生み出すこと
- 生徒自身も持っている知識や経験の可能性
- 話すことだけでなく、聞くこと。言語だけでなく、非言語を使ってコミュニケーション
- コミュニケーションによって相手を動かすような原動力を身に付けること

- 総合的な探究の時間と教科のクロスカリキュラム
- 考える場面、調べる場面をつくる。教える場面のすみわけをつくる
- SDGsの目標に対して様々な方法でアプローチができる。
- 問いかけがメインの授業にする。生徒にどのような問いかけをするか



成果報告会 2021年2月27日(土) 16:00~17:00 オンライン/参加者19名

ゲスト



石田 好広氏
目白大学人間学部
児童教育学科 教授

熱心な先生方、多様な校種の先生方、役職も立場も違う先生方が集まった研究会はすごく価値があり、これは、ESDの学びにも通じている。研究会の報告を聞いていて、先生、特にESDビギナーの先生の悩みや相談を受ける場が必要だと感じ、今後も可能であれば相談に乗りたい。



大塚 明氏
静岡県田方地区教員研修協議会指導講師
伊豆半島ジオパーク推進協議会

先生方の熱心さに心を打たれた。仲間が集まって話しあい、議論できる場が必要。これからは、学校のあたりまえをこわす時代だと思っている。公教育、私立、オルタナティブ・スクールなど多様な教育実践の場がある。それぞれのよさや課題を共有し、目の前の生徒には何が必要かと考える研修があってもいいと感じた。

参加メンバー

- 二宮 由布子
オルタナティブ・スクールあいち惟の森小学部スタッフ
- 西尾 垂利紗
四日市市立橋北中学校 英語科 家庭科 教員
- 川瀬 貴恵
名古屋経済大学高蔵中学校 理科 教員
- 侘美 茂
津島市立暁中学校 校長
- 黒宮 祥男
名古屋国際中学校・高等学校 社会科 教員
- 山本 孝次
愛知県立刈谷北高校 英語科 教員
- 田中 潤
名古屋経済大学高蔵高等学校 英語科 教員
- 榎田 敏弘
愛知県立豊田高等学校 校長
- 若杉 逸平
オルタナティブ・スクール
あいち惟の森理事、学習支援、
元名古屋市立工芸高校教師

チューター

チューターとは・・・
ゼミ生の学びをサポートする人。
チューター会議は計14回行いました。



井中 宏史
名城大学教職センター教授



山本 武志
愛知県教育委員会
生涯学習課担当課長



大鹿 聖公
愛知教育大学
理科教育講座教授
/一般社団法人
SDGsコミュニティ理事



曾我 幸代
名古屋立大学
人文社会学部
心理教育学科准教授



藤井 昌也
名古屋市教育委員会
教育次長



新海 洋子
一般社団法人
SDGsコミュニティ代表理事

スタッフ

- 清水 君代
一般社団法人SDGsコミュニティ事務局長
- 高橋 美穂
一般社団法人SDGsコミュニティ